自ら選ぶ最期の安心　「行ってみて初めてわかる」ついのすみか－お金のリアル　ついのすみか（下）

2026/10/30 04:00 日本経済新聞電子版　1445文字

子どもに介護をさせたくない、最期の場所は自分で選びたい――。そんな思いから、元気なうちに高齢者施設を探す人は増えている。有料老人ホームは、入居時に数千万円の費用がかかるケースもあるが、費用と引き換えに得られる物は何か。どんな観点で施設を選べばよいのだろうか。



松戸ニッセイエデンの園の施設のホールでは定期的に体操教室も開催される

　東京都世田谷区に住んでいたAさん（現在68歳女性）は50代から、自分が入る有料老人ホーム探しを始めた。実母を在宅で長く介護した経験から「子どもたちに自分たちの介護は頼めない」と考えた。全国10カ所以上の施設に足を運び、食事や居室、管理費など気になる点を詳しく聞いた。



施設の居室で歓談するAさん夫婦

　Aさんは「実際に行ってみて初めてわかることも多かった」と話す。充実した施設に思えても、同じメニューを繰り返す食事だったり、プールがあっても利用日が限られたりといったことがあった。

　最終的に、日本生命保険と聖隷福祉事業団が共同設立した財団法人が運営する「松戸ニッセイエデンの園」（千葉県松戸市、以下エデンの園）に決め、夫（73歳）とともに、2024年に入居した。決め手は「ここなら最期まで安心していられる」と思ったからだ。

　エデンの園は元気なうちから入居する施設。安心と思えた理由の一つは、建物内に医師が24時間常駐する有床診療所が併設され、急病などのときにいつでも相談できる点だ。夜中に具合が悪くなっても居室からナースコールで連絡し、すぐ診察を受けられる。近隣

の住民も利用できる会員制スポーツクラブがあり、健康維持の努力もしやすい。

日常的に介護が必要な状態になると、一般居室から介護居室に移る。夫婦のうち片方が介護が必要になった場合、介護が必要になった方は一時介護室に移る。ただ、日中は一般居室に戻って一緒に時間を過ごす夫婦もおり、「夫婦の片方だけが要介護になっても、お互い近くにいられる点も安心」という。

エデンの園の入居には1人の場合、入居時に3619万～7387万円（2人なら1人分に1300万円加算）かかる。この金額は入居一時金のほか、介護金（1人473万円）、健康管理金（1人638万円）を含む。介護金は法令基準以上の人員を配置する費用、健康管理金は併設クリニックの24時間の健康管理体制を維持するための人件費やスポーツクラブの費用となる。毎月かかる管理費や食費、光熱水費の目安は2人で約32万円だ。

Aさん夫婦は自宅を売却して入居した。入居時の費用は高額だったが、入居後は「金銭的な見通しが立ちやすくなった」。固定資産税や家の修繕費はもうかからない。管理費など毎月の費用には、会社員だった夫の厚生年金と企業年金などを充てる。施設の生活に必要となる金額のめどがたったことから、入居後は趣味の旅行に気軽に出かけている。

総園長の森井正孝さんは「病気や介護の必要性が高まった時などに、不安な気持ちをどう支えられるかが重要だ」と話す。入居者に「最期のとき」がどのような状況になるのか理解を深めてもらうため、終末期の勉強会を定期的に開催。施設で亡くなった人の数や医療、ケアの状況などを入居者に説明する。

毎月、終末期についての疑問や不安などに専門の職員が対応する個別相談会も開く。介護居室への住み替え時など、折りに触れて延命治療の希望など終末期の意思を確認する。ときには、同じ境遇の入居者どうしで体験を共有したり励まし合ったりすることが安心につながる場合もあるという。

最期の場所を選ぶなら、費用の対価として、最期に続く「安心」がどのように得られるかを見極めたい。

（川本和佳英）

【関連記事】

・ついのすみかはどこ　有料老人ホーム「よろしければみとります」
・自分の葬儀を「生前見積もり」　形式や規模を相談、料金明瞭に
・身寄りのない高齢者、社協も終活支援　入院手続きや死後事務

許諾番号NK005157　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。
本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.